

〔今川大雙紙〕上 簇式法の事

一 碁盤のすみの事、大内の御物は、立目一寸づ、横目八分、あつさ四寸五分、足三寸五分也。
一 平人の碁盤は、立目八分、横め七分、あつさ四寸五分、あし二寸五分、總じて高サは七寸也。

〔大諸禮〕聞書

一 碁盤の寸法、内裏のは、たつめ一寸、よこ八分、あつさ四寸五分、あし三寸五分以上、高さ八寸なり。
武家は、たつめ八分、よこめ七分、あつさ四寸貳分、あし二寸八分以上、高さ七寸なり。

〔圍碁式〕碁局寸法

長一尺四寸八分 廣一尺四寸 高六寸二分 木厚三寸四分 足高三寸二分

此寸法大旨なり、只見吉ほどに可計、石各以貳百爲一具、

〔視聽草 六集 九〕碁道珍話

碁盤寸法

總高 七寸八歩ニ極 盤厚 三寸九歩 長サ 一尺四寸五歩 横 一尺三寸五歩

縁 三歩

右ハ本因坊四代目名人道悦定之、板垣善兵衛吟味之上、

〔和漢三才圖會十七〕碁略 ○中

按、枰大抵厚六寸、縦一尺四寸、横一尺三寸八分、方野七分、各十九野、其木以榿爲良、檜次之、桂爲下、新
榿枰、如見ヒキキ破者、急藏箱、經久則愈如故、

〔類聚名物考調度 九〕聖目 せいもく 碁盤の目也 今昔 井目

〔圍碁式〕碁局寸法 ○中

聖目之事、由緒未分明、說云、局目三百六十は一年に宛、其中に九有は九曜也云々、本文につきて聖